



# あさひ台

学 校 報  
第 5 3 3 号  
R 7 . 2 . 2 8  
五 城 目 小 学 校

学校教育目標

夢高く 心たくましく 学び合う五小の子  
～ つなぐ ひらく つくる ～

## プルタブに夢中

冬休み明け、ボランティア委員会の呼びかけでプルタブ回収を行いました。たくさんのご協力を得て、段ボール2箱ほどのプルタブが集まりました。ありがとうございました。

ある日の昼休み、廊下に置かれたプルタブ入りの段ボールの前に、3年生男子二人がやってきました。何に興味をもったのか様子をうかがっていると、一人がその中に両手を突っ込み、「プルタブって、かたいけど柔らかい…。」とつぶやきました。面白い表現になるほどと感心しました。プルタブはアルミニウムでできており一つ一つはかたいはずですが、でも、たくさんプルタブの中に手を入れたとき、まるで水の中のような感覚を覚えたのでしょうか。もう一人は、たくさんプルタブをかき混ぜながら「プルタブって掘れるんだ。」とつぶやきました。

そんな声を聞いて、もう少し遊んでもらおうとある仕掛けを思いつきました。理科室にある電子てんびんと紙製の箱をもってきて、二人に渡したのです。すると、私の思いが伝わったようで、二人はすぐにプルタブを箱に入れ、重さを量ろうとしました。そこで私は「100gってどのくらいだろう。」と声を掛けました。一人が「このくらいかな？」と、片手いっぱいプルタブを箱に入れ直し、電子てんびんに載せました。しかし、100gには全く届きません。「えっ」と驚きの声をあげながら、今度は両手ですくって電子てんびんに載せました。子どもの手では、それでも足りませんでした。プルタブ100gは、予想以上に量が多かったことに驚いたようです。

「じゃあ、1個は何gだろう？」と、1個を電子てんびんに載せましたが表示は「0」。「えっ？」とつぶやき、もう1個載せるとやっと「1」gの表示が出ました。(最小表示が1gのため、正確とは言えませんが。)その次は子どもが自ら、「じゃあ、プルタブ100個だと何gだろう？」と疑問をもちました。10個ずつ数えて100個のプルタブを箱に入れ、電子てんびんに載せると「42」gでした。ちょうどそこへ、外遊びに出ていた子どもたちが帰ってきました。プルタブに興味を示した4年生男子に、「100個で42gだって。1個は何g？」と私が問いかけました。「うーん…」と視線を上げながら考えることわずか2秒、「0.42g！」と答えてくれました。

2月7日で片づけるはずだったプルタブですが、2月26日まで置いておきました。電子てんびんを増やし、井サイズの発砲スチロール容器や紙コップ、紙皿なども置きました。3年生だけでなくほかの学年の子どもも一緒になって遊ぶ姿も見られるようになりました。二人の興味からはじまった「プルタブ遊び」は、他の学年にも広がっていきました。(校長 島崎徳之)



## 学校運営協議会による評価

2月26日（水）学校運営協議会が開催されました。この会の主な役割は、学校運営について教育委員会又は校長に意見を述べること、校長が作成する学校運営の基本方針を承認し支援について協議することなどです。

委員の皆様から、次のとおり今年度の学校運営に対する評価をいただくとともに、来年度の学校経営基本方針について承認をいただきました。

1 夢につながる主体的な学び…「かがやく子」を目指して	
A：13人 B：3人 C：0人	
意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研修や授業の改善等、先生方の様々な取組が、子どもたちの学びにつながっていることが分かりました。</li> <li>・小学校の学びは学力の基礎となる大切な時期である。先生方が実態を把握し、きめ細かい対応で授業改善に取り組まれていることは学力の向上につながるものと思う。今後もひき続き、よろしくをお願いします。</li> </ul>
2 夢に向かって磨く豊かな心…「やさしい子」を目指して	
A：16人 B：0人 C：0人	
意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・創立150周年にむけ、学校では準備等大変な1年だったと思いますが、この1年の様々な取組が、子どもたちの心を育てたと感じる。</li> <li>・自己肯定感が高いのは良いことだと思います。先生方や地域の方と関わる機会が多いので「豊かな心」も育まれるのだと思います。</li> </ul>
3 夢を支える健やかな体…「明るく元気な子」を目指して	
A：8人 B：8人 C：0人	
意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新体力テストの結果から体育主任が各学年で特に力を入れる運動を示し、全校で取り組んだり、児童委員会と連携しての体力づくり等、全職員が共通理解のもとに取り組む体制ができていることを感じる。</li> <li>・給食で地元産の紹介をしたり、畑づくりなど体験をしたりすることはとてもよい経験と思う。ぜひ続けてほしい。</li> </ul>
4 学校・家庭・地域との連携	
A：16人 B：0人 C：0人	
意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域にでかける授業、来てもらう体験、ふれあうことで育っていると思う。</li> <li>・創立150周年式典に参加し、学校に対する保護者や地域の方々の期待や思いが感じられ、改めて素晴らしい教育環境であることを認識しました。今後も、人の役に立ちたい・地域のためになる活動をしたい、という子どもの思いをくみとり、一人ひとりが活躍できる場をつくっていただければと思います。</li> </ul>

委員の皆様から頂いたたくさんのご意見を来年度の学校運営に生かし、学校教育目標の具現化に努めてまいります。



## 6年生を送る会

28日（金）、6年生を送る会を実施しました。5年生が中心となり、企画から進行まですべてリーダーとなって行いました。全校児童が6年生に感謝の気持ちを伝えた温かい会となりました。



6年生の発表



5年生の発表



## 寄贈していただきました

潟上市在住の粘土作家、村山裕磨さんから五小のキャラクターを寄贈していただきました。校長室前に飾っていますので、機会がございましたら、ぜひご覧ください。



五太郎

ぴっきー

やっぴー

ちゃっぴー